

第153号

せとのおさ



令和2年度「家庭の日」に関する図画 特選作品
「かぞくみんなで集まって楽しい時間ができた」福山市立御幸小学校 3年 もんでん こころ 門田 心

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成的あり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



目次

- 2 第32回 定時総会
- 3 令和2年度青少年育成県民運動推進大会
- 8 ひろしまドリームプロジェクト～オリンピックに夢を乗せて～
(5年間の軌跡)
- 18 令和2年度「家庭の日」に関する作文・図画
作文の部 特選(広島県知事賞)
図画の部 特選(広島県知事賞) 入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)
- 22 市区町民会議活動等報告
- 30 「少年の主張」・中学生話し方大会2020
(第42回少年の主張広島県大会 第54回中学生話し方広島大会)
- 32 関連事業「広島県子供議会」
(青少年サポーター事業)



第32回 定時総会

第32回定時総会を広島YMCA国際文化ホールで開催

公益社団法人青少年育成広島県民会議は、令和2年6月17日(水) 13:30～14:30に「第32回定時総会」を広島YMCA国際文化ホールで開催し、報告事項として令和元年度事業報告、令和2年度事業計画及び収支予算、審議事項として令和元年度決算書、令和元年度監査報告、理事の選出が採択されました。



また、本総会で^{うへだ そうけい}上田宗岡さんが会長を退き、新会長に^{しん でとる}神出亨さんが就任しました。

神出新会長は、昭和43年に中国電力株式会社に入社され、平成19年に同社副社長、平成23年に株式会社中電工代表取締役社長、平成26年に同社会長を歴任され、現在は同社相談役の職に就かれております。また、平成28年からは公益財団法人広島県体育協会会長に就任されております。



神出亨 新会長

上田前会長は、平成10年から22年の永きにわたり当県民会議の会長を務めていただきました。小学生の夢の実現を支援する「夢配達人プロジェクト推進事業」や「ひろしまドリームプロジェクト事業」など子供たちの夢を豊かに育む事業を推進するとともに、あいさつ・声かけ運動、少年の主張、家庭の日に関する図画・作文募集、青少年育成力レτζなど、現在の当県民会議の基盤となる幅広い事業の定着にご尽力いただきました。心から感謝の意を込めて、花束を贈呈しました。



上田宗岡 前会長



総会終了後、^{ゆ さきひでひこ}湯崎英彦県知事から感謝状が授与されました。

令和2年度 青少年育成県民運動推進大会

令和2年10月31日(土)、広島県民文化センター多目的ホールにおいて、
青少年育成県民運動推進大会を開催しました。



大会次第

【開会】

◎国歌斉唱 ※新型コロナウイルス感染防止対策で唱和は無し

◎開会あいさつ

(公社) 青少年育成広島県民会議会長

◎表彰

青少年健全育成功労者等知事表彰

「家庭の日」に関する作品の知事表彰

(公社) 青少年育成広島県民会議表彰

【少年の主張意見発表】

第41回少年の主張広島県大会県知事賞受賞

第41回少年の主張全国大会国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「生きる意味」

広島市立舟入高等学校1年 西村悠さん

【青少年活動発表】

獅子太鼓

三原市立幸崎中学校郷土芸能班

【講演会】

講師 四代目 さんゆうていえんのか 三遊亭圓歌さん

演題 「感謝のプラス志向」

【閉会】

◎閉会挨拶

(公社) 青少年育成広島県民会議副会長



神出会長あいさつ



式典では、主催者を代表して、(公社) 青少年育成広島県民会議 しんてとあ 神出亨会長が開会のあいさつをしました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、受付から観客席まで徹底した感染予防対策を行い、例年ではご来賓をお招きするところも中止とさせていただきました。

「広島県知事表彰」及び「青少年育成広島県民会議表彰」として、永年にわたり青少年育成に力を尽くした方々や団体、模範的な活動を行っている団体を表彰しました。

また、県内の小・中学生から応募のあった「家庭の日」に関する作文・図画の特選に選ばれた4人に県知事賞を授与しました。

終わりに、(公社) 青少年育成広島県民会議 とくひろちかとし 徳弘親利副会長が閉会のあいさつを行い、全てのプログラムが無事に終了しました。

大会の様子はこちらから

<http://hiro-payd.or.jp/2020/12/25/2645/>



徳弘副会長
閉会あいさつ

令和2年度青少年健全育成功労者等知事表彰受賞者

(青少年健全育成功労者23人)

あいだ 栄司(尾道市)	いまだ よしはる(広島市)	うめもと まさこ(広島市)	かしまこ みずえ(広島市)	くぼ さだあき(広島市)
こばやし 明(尾道市)	すみた ゆみこ(広島市)	たかはし 昭喜(東広島市)	たかやま えみこ(広島市)	たぐち けいこ(広島市)
たなか 尚子(広島市)	とりの かずこ(廿日市市)	なかの ひでお(呉市)	なんば ひさのり(広島市)	はせがわ けいし(三原市)
ふじかわ 総子(広島市)	ふじわら たかのり(尾道市)	ふるかわ しゅんたく(東広島市)	もりかわ さちろう(三次市)	やまぐち ゆきお(呉市)
やまなか はるき(広島市)	やまもと よしひろ(広島市)	よしなが みさこ(広島市)		

(育成功労団体3団体)

おのみち かい
尾道かもめ会(尾道市)

ぎ おん ぶん けんかい しゅうねんだん
祇園武剣会スポーツ少年団(広島市)

よこはまむかし かい
横浜昔あそびの会(坂町)

(模範青少年3人)

お の みず き
小野 瑞季(福山市)

かき ぎ り よ
柿木 里予(福山市)

ますはら なお え
増原 直枝(福山市)



令和2年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者

(作文の部)

特 選 呉市立呉中央中学校 1年 宮岡 隼都

特 選 呉市立音戸中学校 3年 桐谷 友里

特 選 広島市立宇品中学校 3年 宮本 優

(図画の部)

特 選 福山市立御幸小学校 3年 門田 心



(50音順、敬称略)

令和2年度青少年育成広島県民会議表彰受賞者

(青少年6人)

おおくら めい 大倉 芽依(安芸太田町) おだ あいか 小田 愛芽(安芸太田町) のりのぶ だいすけ 則信 大介(尾道市) のりのぶ ゆうた 則信 裕太(尾道市)
みやもと しんすけ 宮本 晋輔(尾道市) もりなが ゆうだい 森永 雄大(安芸太田町)

(青少年健全育成功労者51人)

<small>あり ま</small> 有馬 義憲(広島市)	<small>いけもと まさよし</small> 池本 正良(東広島市)	<small>いしもと しげお</small> 石本 重夫(広島市)	<small>うえなが かつなり</small> 植永 勝成(広島市)	<small>うね いくえ</small> 宇根 育恵(広島市)
<small>おおの としお</small> 大野 敏雄(三原市)	<small>おおまえ りょうこ</small> 大前 良子(広島市)	<small>かね こ まり</small> 金子 真里(呉市)	<small>かみ せ まさひろ</small> 上瀬 雅晴(呉市)	<small>かみむら としえ</small> 神村登紀恵(広島市)
<small>かめもと まこと</small> 亀本 誠(広島市)	<small>かわの しげのり</small> 河野 重徳(広島市)	<small>きむら ふみ</small> 木村 二美(呉市)	<small>こが けいし</small> 小谷 桂司(呉市)	<small>こばた けんぞう</small> 小畑 賢蔵(広島市)
<small>さわ みなえ</small> 澤 美苗(呉市)	<small>しおだに たけし</small> 塩谷 武志(三原市)	<small>しげのぶ えいさく</small> 重延 榮策(三原市)	<small>しょうじ よしろう</small> 庄子 佳良(広島市)	<small>せんざき いちろう</small> 千崎 一郎(三次市)
<small>たかすぎ としひろ</small> 高杉 敏治(呉市)	<small>たかはし ひとし</small> 高橋 一郎(尾道市)	<small>たかはし としゆき</small> 高橋 利行(尾道市)	<small>たていし やすじ</small> 立石 安次(尾道市)	<small>たなか としこ</small> 田中 利子(広島市)
<small>てしま のりこ</small> 手島 紀子(東広島市)	<small>とぎし のりこ</small> 土岐 法子(広島市)	<small>なかが ひろみ</small> 中岡 博美(呉市)	<small>なかもと てる</small> 中本 晃(広島市)	<small>にい やすと</small> 新出 康人(大竹市)
<small>にしずみ のぶお</small> 西住 信雄(呉市)	<small>ぬまた なおあき</small> 沼田 直亮(広島市)	<small>ほこざき ともゆき</small> 箱崎 友幸(尾道市)	<small>はしもと あさこ</small> 橋本あさ子(広島市)	<small>ひや しんじ</small> 比屋 真司(尾道市)
<small>ひらなか かずひろ</small> 平中 和宏(広島市)	<small>ひらばし かずこ</small> 平林 和子(廿日市市)	<small>ひわ こうじ</small> 榎皮 浩二(広島市)	<small>ふくしま のりこ</small> 福島 典子(広島市)	<small>ふしおか きよと</small> 藤岡 清登(三次市)
<small>ふじおか くみ</small> 藤岡 久美(三次市)	<small>ふじわら のぶひこ</small> 藤原 信彦(広島市)	<small>ほり ふじお</small> 堀 富士男(尾道市)	<small>まつもと さなえ</small> 松本 早苗(広島市)	<small>まつもと しろう</small> 松本 史朗(尾道市)
<small>みやはら かつみ</small> 宮原 勝三(広島市)	<small>えみ こ ちか</small> 本崎 恵美子(広島市)	<small>やまかわ よしあき</small> 山川 義昭(広島市)	<small>やまね まさのり</small> 山根 正則(竹原市)	<small>よしおか まさこ</small> 吉岡かや子(広島市)
<small>よねもと こうじ</small> 米元 広治(広島市)				

(育成功労団体5団体)

おんど ひなうた ほぞんかい 音戸の舟唄保存会(呉市) かめやまけんどう 亀山剣道クラブスポーツ少年団(広島市) こうちっ子体験スクール実行委員会 こうちっ子体験スクール実行委員会(広島市)
さいぎき 幸崎パイレーツスポーツ少年団(三原市) なかの つかし 中野東スポーツ少年団(広島市)

(模範活動団体2団体)

くれし りつこうはらちゅうがっこうせいとukai 呉市立郷原中学校生徒会(呉市) やすうらいっしんかん 安浦一心館(呉市)



(50音順、敬称略)

青少年活動発表

獅子太鼓

三原市立幸崎中学校郷土芸能班

三原市立幸崎中学校郷土芸能班は、毎年3月下旬に行われる「幸崎能地春祭り」にて、五穀豊穡と大漁を祈願して奉納される「獅子太鼓」の継承を目的に、1975年、幸崎中学校に特別な部活動として設立されました。今年で、発足から45年目を迎えます。全校生徒が所属し、週1回の練習を重ね、地域文化の継承に努めています。今回は、『獅子太鼓』を披露しました。



少年の主張意見発表

第41回少年の主張広島県大会県知事賞受賞・第41回少年の主張全国大会国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「生きる意味」 広島市立舟入高等学校1年 にしむらゆう 西村悠さん ※受賞時は東広島市立西条中学校3年

令和元年度「第41回少年の主張広島県大会」で、広島県知事賞を受賞し、第41回少年の主張全国大会で国立青少年教育振興機構努力賞を受賞した広島市立舟入高等学校1年 西村 悠さんが「生きる意味」と題しまして体験し気づいたことを発表しました。



講演会

四代目 さんゆうていえん か 三遊亭圓歌さんが「感謝のプラス志向」をテーマに講演しました。会場は爆笑の渦で、笑いの中にも考えさせられる場面がたくさんあり、会場の皆さんは笑顔と感銘の中、楽しいひと時を満喫しました。



さんゆうていえん か
三遊亭圓歌 さん

本名：野間 賢 の ま さとし

昭和34年4月8日鹿児島県肝属郡錦江町(旧・大根占町)生まれ。

昭和53年(1978年)3月大阪市立汎愛はんあい高校卒業後、三代目・三遊亭圓歌えんかに入門。昭和57年(1982年)4月に二つ目昇進。三遊亭きん歌となる。昭和60年(1985年)若手演芸大賞最優秀二つ目賞を受賞。NHK新人落語コンクール入賞。昭和62年(1987年)10月先輩18人抜きで真打昇進。入門9年目で真打昇進の大抜擢を受ける。初代・三遊亭歌之介となる。落語にとどまらず、テレビ、映画でも活躍し、平成31年(2019年)3月四代目・三遊亭圓歌を襲名する。



ひろしまドリームプロジェクト ～オリンピックに夢を乗せて～

5年間の軌跡

● ● ● 平成28年度(2016年度) ● ● ●

バスケットボール講習会・実技指導等

開催日：平成28年8月25日(木) 13:00~16:00

会場：広島県立総合体育館(大アリーナ)(広島市中区基町4-1)

指導者：広島ドラゴンフライズ選手・コーチ

参加者：広島県内の小学生103人

協賛：広島県遊技業防犯協会連合会 株式会社広島ドラゴンフライズ



フットサル講習会・実技指導等

開催日：平成28年11月12日(土) 13:30~15:30

会場：ミズノフットサルプラザ(広島市西区観音新町4-16-7)

指導者：ミズノスポーツサービスフットサル指導者

アンジュヴィオレ広島(女子サッカーチーム)育成指導者・選手

参加者：広島県内の小学生29人

協賛：広島県遊技業防犯協会連合会 ミズノスポーツサービス株式会社



● ● ● 平成29年度(2017年度) ● ● ●

卓球講習会・実技指導等

開催日：平成29年8月29日（火）13：00～15：00

会場：広島県立総合体育館（小アリーナ）（広島市中区基町4-1）

指導者：中国電力女子卓球部監督、コーチ、選手

参加者：広島県内の小学生33人

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



柔道講習会・実技指導等

開催日：平成29年9月3日（日）13：30～15：30

会場：廿日市市スポーツセンターサンチェリー・武道場（廿日市市串戸6-1-1）

指導者：全日本柔道連盟 出口達也氏、廿日市市柔道連盟指導者

参加者：広島県内の小学生92人

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



● ● ● 平成30年度(2018年度) ● ● ●

バレーボール講習会・実技指導等

開催日：平成30年6月23日（土）13：30～15：30

会場：東広島運動公園（メインアリーナ）

指導者：日本たばこ産業株式会社男子バレーボール部 JTサンダーズ選手3人

参加者：広島県内の小学生83人

共催：東広島市教育委員会、青少年育成東広島市民会議

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



バドミントン講習会

開催日：平成30年7月27日（金）13：30～15：30

会場：広島県立総合体育館（小アリーナ）

指導者：広島ガスバドミントン部 監督、選手6人

参加者：広島県内の小学生75人

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）
広島県バドミントン協会

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



● ● ● 令和元年度(2019年度) ● ● ●

陸上教室

開催日：令和元年7月23日（火）13：30～15：30

会場：呉市総合体育館（シシンヨーオークアリーナ）

指導者：中国電力株式会社陸上競技部 選手7人

参加者：広島県内の小学生219人

共催：呉市文化スポーツ部文化振興課、呉市青少年補導員連絡協議会

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）
一般財団法人広島陸上競技協会

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



ハンドボール教室

開催日：令和元年7月30日（火）14：00～16：00

会場：広島県立総合体育館（小アリーナ）

指導者：イズミメイプルレッズ 選手5人

参加者：広島県内の小学生28人

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）
広島県ハンドボール協会

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



● ● ● 令和2年度(2020年度) ● ● ●

開催日：令和2年10月25日(日) 14:05~18:30

会場：広島サンプラザ

参加者：100人(広島県内の小学生及びその保護者等)

内容：○試合観戦「広島ドラゴンフライズ」対「三遠ネオフェニックス」

○「田渡凌選手と神田康秋さんによるトークショー」

テーマ：「挑戦」することの大切さ

協力：株式会社広島ドラゴンフライズ

トークショーの様子を配信中



協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会

<http://hiro-payd.or.jp/2020/12/11/2650/>



● ● ● プロジェクトを振り返って ● ● ●

「ひろしまドリームプロジェクト」は、小学生を対象にプロスポーツ選手等による講習会・実技指導等を開催し、青少年の体力向上と機運の醸成をはかり、心身ともにたくましい青少年の健全育成に資することを目的に、平成28年度から開始されました。

毎年2種目のスポーツを選びこの5年間で8種目、延べ700人を超える子供たちが参加してくれました。それぞれの種目でトップレベルの実技指導等を受けながら、夢を抱き生き生きと運動する子供たちの姿が特に印象的でした。

最終年度となる今年度は、オリンピックの延期に伴い、予定していた「東京五輪体験プログラム」の中止を余儀なくされましたが、新たな企画として地元「広島ドラゴンフライズの試合観戦」と「挑戦することの大切さ」をテーマに「田渡凌選手と神田康秋さんによるトークショー」を実施することができました。

試合観戦では、延長戦の末、劇的な勝利で大いに盛り上がり、トークショーでは、夢に向かって取り組む田渡選手の熱い思いに会場全体が引き込まれ、まさにこのプロジェクトを締めくくるのにふさわしい内容となりました。

このプロジェクトを通して、本当に多くの関係者の皆さんにご協力をいただきました。

改めてお礼を申し上げます。

参加してくれた子供たちが夢の実現に向け、たゆまず進んでいってくれることを願うとともに、今後とも心から応援しています。

～令和2年度ひろしまドリームプロジェクト～

「広島ドラゴンフライズ田渡凌選手と 神田康秋さんによるトークショー」

テーマ:「挑戦」することの大切さ

期 日:令和2年10月25日(日)(広島サンプラザ)

「田渡さんは3歳からバスケットを 始めたんですね。」

神田: 田渡さんは3歳からバスケットを始めたんですね。

田渡: はい、3歳から始めました。

神田: 3歳ですよ、皆さん。3歳でバスケットってできるもの
なんですか。

田渡: 覚えてないです。全然覚えてないんですけど、自分は
三人兄弟の末っ子なんですけど、お兄ちゃん二人がも
ともとバスケットボールをやっていて、それでお母さ
んが、僕を大会に連れていかないと家に1人にできな
い、そういう経緯で始めました。

神田: なるほど。では、よく分からないけれども、兄弟、お
兄ちゃん、4歳年上、6歳年上ですね。

田渡: そうです、はい。

神田: それからバスケットを見て、目の当たりにして、どう
でした？

田渡: 今27歳で、3歳から24年間やってきたんですけど、大
好きだし、それが1回も変わったことがないんです。
友達と遊ぶよりも何をしているよりも、バスケットを
やっているのが一番楽しいので、その気持ちは変わら
ないですね。

神田: そして、最初の今日のテーマの「挑戦」ですけれど
も、一つ目の挑戦がここで生まれるんですよ。お兄
ちゃんに負けたくないというチャレンジ精神、この辺
りはどうでしたか。

田渡: みんな、何年生ぐらいかな。2年生か3年生ぐらい？4
年生？

神田: 4年生。

田渡: お兄ちゃんが四つとか六つ上だと、なかなか勝てない
んだけど、でも、僕は昔からすごく負けず嫌いで、負
けると毎回けんかをしてました。バスケじゃ勝てない
から、もうずるいことばかり。後ろからパンチした



りとかしていたんだけど、それぐらい負けず嫌いで、
でも、その勝ちたいという気持ちが僕の初めてのチャ
レンジでした。

神田: そして、ゲームもしていない、ほかの遊びもしていな
いわけでしょう？ 子どもの頃、小学校の頃。ゲーム
とか、テレビゲームとかは？

田渡: ほとんどやっていた記憶がないです。

神田: そのテレビ画面では、いつも何を映していましたか。

田渡: バスケットボールの試合をよく見ていました。

神田: 小学生で？

田渡: はい。

神田: そして、ここで、皆さん、それを見て、田渡さんはど
う思ったか。教えてください。

田渡: たぶん、今日みんなね、試合を見に来てくれたから
思った人もいないかもしれないんですけど、僕はビデオ
を見て、「あ、こういう人たちがみたいにな手になりたい
」と思って、まねをするようにしていました。うち
の実家の外には、お父さんがリングを付けてくれた、
バスケットゴールを付けてくれたんだけど、ビデオを
見て、止めて、外でまねをしてという、ちょっとおか
しいよね。というのを毎日やりました。

神田: ですから田渡さんは、まずスタートは、まねをするこ
とから始めて、憧れてまねをした、そういうことでい
いですか。

田渡：はい、そうです。

神田：そして、要はプレーですから、もう一流のプロ選手たちもいるわけですよね。そういったプレーをまねて、小学校の頃、できるものなんですか。

田渡：できません。

神田：あ、できないんだ。ちょっと、ほっとしました。

田渡：はい。まあ、できることもあったんですけど、ほとんどはできないんです。でも、やっぱりできないことが見つかるのが自分は楽しくて、どうやったらこれはできるようになるんだろうというのを、何回も見て勉強して、外へ行って1人でやってというのをやっていたので、そうですね、それが僕の楽しみでした。

神田：皆さん、心に留めてね。できないことを見つけたということがね、できないことが分かったということ。これはチャレンジしないと分からないですね。

「新しいことを始めないと、自分が何ができて、何ができないのかというのが分からない」

田渡：そうですね。新しいことを始めないと、自分が何ができて、何ができないのかというのが分からないですし、それが自分は一番大事にしていることです。だから、できないことが見つかったときは、楽しんでやるのが僕は一番いいことなんじゃないかなと思うし、それが生きがいになると僕は信じています。

神田：そして、小学生の頃というのは、お父さまがバスケットボールの先生、監督さん。

田渡：お父さんは小学校の先生ではないので、中学校・高校のバスケットボールを教えている指導者だったんですけど、お母さんは毎日試合に来て、僕が先生に、ちょっと無視したりとか返事をしなかったら、裏に連れていかれて、めちゃめちゃやられましたね。怒られました。

神田：それだけお母さんは本当に教えたかったんですね。



田渡：僕がバスケをうまくするためにやっていたというよりは、一人の人として、礼儀だったりとか、そういう部分に関してはものすごく厳しかったと思います。僕が失礼なことをしたりとか、友達に対して嫌なことをしていたりとか、そういうことがあったときとかは、ものすごく怒られました。

神田：キャプテンにしようとか、もちろん全然お母さんは思っていないよね。リーダー的な役割をしよう、あるいは、このポジションはこうなんだ、ゲームメーカーなんだということも設定していないのに厳しかった？

「僕が弱気な姿勢とか、それこそ挑戦しない、チャレンジしない姿勢でバスケットに臨んでいると、ものすごく怒られました。」

田渡：そうですね、そういう技術的な面とかで怒られたことはないんですけど、僕が弱気な姿勢とか、それこそ挑戦しない、チャレンジしない姿勢でバスケットに臨んでいると、ものすごく怒られました。

神田：今、とっても大事なことだね。チャレンジしない。もう最初から、僕はできないよ、私はできないわというのは駄目だということなんですね。

神田：3歳から始めて、小学校、ミニバスケットボールですよ。僕も実況中継を何度もしましたよ、子どもたちのプレーをね。みんなすごくうまい。レベルが高い。そういう中で、いわゆる同級生よりも、それ以上の力を持っていたわけでしょう？

田渡：持っていました。

神田：チームの中には、年上ばかりのいるチームに入ったということですか。

田渡：そうです。

神田：やりづらくなかったですか。

「毎日毎日、この人に勝ちたいと思いながら練習したのが、僕の幼少期ということになります。」

田渡：始めた当初は、僕よりうまい人たちがいっぱいいるので勝てないんですけど、でも、最初は4歳と6歳上のお兄ちゃんを倒すためにずっとやってきた日々が、一つ上の先輩、二つ上の先輩、三つ上の先輩たちと毎日やっている中で、毎日毎日、この人に勝ちたいと思いながら練習したのが、僕の幼少期ということになります。



神田：これもチャレンジなんですね。ですから、先輩たちに負けたくないという、負けん気がやっぱり強いんですね。

田渡：強いですね。何に関しても勝ちたいと思っていますね。

神田：では、小学校の頃というのは、どうしたら勝てるというふうに。覚えている範囲でいいですけど、どういうことをされていましたか。

田渡：今もそれは変わっていないんですけど、やっぱり練習しないと勝てないし、「おっしゃ、勝ちたい」と思ったから勝てるスポーツじゃない。シュートも、「おっしゃ、決めたい」と思って打っても、入らないことが半分以上あるわけで、だから、とにかく練習して、自分が勝てると思うまで練習するようにしていました。

神田：その練習ですけれども、だったらご両親は、バスケット一家だし、バスケットばかりして、勉強というのはどうなんですか。

田渡：僕は、よく運動選手は「運動だけでできればいい」と言われるのが嫌だったから、僕は勉強もずっと学年でトップクラスでした。

神田：学年でトップクラス。

田渡：はい、そうです。

神田：みんな聞いた？ 学年でトップクラスの人、手を挙げて。おっ、いた。関係者ですね（笑）。しかし、いわゆるトップクラス、そしてバスケットでも、ある程度の力をつけてきたということで、では、やはり人生の自信が、その幼少期に、もう芽生えたんですか。

「やっぱり自信は 自分がどれだけ練習したかで ついてくる」

田渡：そうですね、やっぱり自信は自分がどれだけ練習したかについてくるものだと思うんですけど、勉強していた理由も、ほかの人に負けたくなかったからだし、そうやって思われたくない、バスケットはうまいけど勉

強もできると思われたかったし、ほかの人と一緒にになりたいくないという気持ちが強かったから、自分は勉強も運動も一生懸命やりました。

神田：そして、小学校を卒業して、今度は中学生ですよ。日本チャンピオンになっていくわけですよ。

田渡：なれなかったんですけどね。

神田：あ、なれなかった。

田渡：2番で終わっちゃったんです。

神田：あ、そうか。目指したんだけど2番だったんだ。

田渡：そうです。

神田：悔しかったですね、その時。

田渡：相当悔しかったですね。めちゃめちゃ泣きましたね。

神田：めちゃめちゃ泣いた。

田渡：はい。

神田：やっぱりそういう悔しさからはい上がっていく方法というのを、その時に身に付けていましたか。どういうことを考えていましたか。

田渡：その時は、考えていたというよりも、やっぱり負けると、ゲームとかでも負けたら悔しいよね。僕の場合は、バスケットボールをやっていて、全国大会に出て、負けて悔しかった。バスケットボールで勝ちたいから、その悔しい思いをどこで晴らすかと言ったら、もう一回、体育館に行って練習することしか、僕の中で気を晴らすことができないというか、そこ以外に自分のフォーカスがなかった。だから、負けたときこそ体育館に向かって練習し続けたというのは、僕の財産になっています。

神田：自分を冷静に見つめる力が、その時にもう既にあったということですね。この力が大事なんですね。要は、何が足りないか分かっているという。

田渡：自分もそうだし、僕の場合は両親もそうだし、中学校のバスケットボールの先生たちもそうだし、先輩たちもそうだったんですが、周りに恵まれていたと思います。僕は、正直、結構上手だったから生意気だったかもしれないけど、それを怒ってくれる先生たちがいつ



ばいいからよかったなと思うし、調子に乗らないで、「俺、もう、うまいから練習しなくていいや」と1回もならなかったのがよかったことだと思います。

神田：いいね、今日の話はね。お父さん、お母さんのほうが「ふんふん」とうなずいていらっしやる。

田渡：眠いよね、みんなね。しーんとして。ごめんね。

神田：小学校から中学校、そして高校というふうになるわけですけども、将来の進路ということで、身長も高くなっていましたよね。

田渡：そうですね。そんなに大きくはないんですけど、普通の人よりは、まあまあ大きいほうかなと。

神田：1メートル60センチぐらいが中学。

田渡：中学校3年生は174センチぐらいありましたね。

神田：もう、そこで。あ、そうなんですか。

田渡：はい。

神田：そして高校卒業時点で。

田渡：180センチ台ですね。

神田：それでポイントは、高校からどういうふうにして身を立てていこうかということなんですよ。バスケット一家ですけども、どういうことを考えていたんですか。兄弟同士で何か話していたんですよ、きっと将来図を。

「アメリカの大学に行って、もっともとうまい人たちが強い人たちとやって勝ちたい、うまくなりたい」

田渡：はい、そうです。高校へ行ったら、みんな、次はどこに行く？大学へ行くよね。自分は、日本の大学に行ってバスケットをするんじゃなくて、バスケはアメリカが一番強いんだけど、アメリカの大学に行って、もっともとうまい人たちが強い人たちとやって勝ちたい、うまくなりたいと思ったから、僕は高校が終わってからアメリカに留学しました。

神田：聞きましたか。国際的になっちゃった。だけど、夢を描くということをずっと思っていた高校時代、その気持ちが芽生えたのはいつですか。

田渡：15歳ぐらいです。高校1年生ぐらいです。

神田：アメリカに行きました。どうだったですか。

田渡：自分が思っていたよりも大変なことがいっぱいありました。

神田：うん。何が大変？

田渡：言葉がしゃべれない、自分の思っていることを人に伝えられない、思いどおりにならない。

神田：ああ、何もかもが？

田渡：はい。でも、これも全部、人のせいにはできないので、どうやったら今の自分がなりたい自分になれるかというのをいっぱい考えましたね。

神田：いっぱい考えた。

田渡：いっぱい考えましたね。悔しすぎて眠れなかったです。

神田：だいたい睡眠時間は9時間取るタイプよね。

田渡：はい、毎日9時間寝ます。

神田：皆さん、9時間寝るんですよ。それはどうして？

「9時間寝るとシュートの成功率が上がります。」

田渡：9時間寝るとシュートの成功率が上がります。

神田：みんな、今日から寝よう。9時間ね。本当に？

田渡：はい。そういう研究結果を僕は読んだことがあります。

「やっぱり人間として、いい大人にならなきゃいけないというのがバスケット選手よりも大事なことから、」

神田：アメリカで身に付けたことは何ですか。

田渡：たくさんあるんですけど、バスケットボールの技術よりも、僕が学んだのは、自分が今ある環境でどれだけ成長できるか。もちろん、バスケットボールをやっていたら、バスケットがうまくなりたいと思って毎日過ごしてはいるんだけど、やっぱり人間として、いい大人にならなきゃいけないというのがバスケット選手よりも大事なことから、どうやっていい人間になれるか、人に見られても恥ずかしくない生活をするかというのを、僕は一番考えてやっていました。だから、人が見ていないときこそ練習したし、人が見ていないときこそ、ごみ拾いをやったりとか。そんなことを言ったら、善人にしか聞こえないんですけど。





神田：いやいや、本当にそうですよ。

田渡：でも、常に人に見られていると思って僕は今も行動しているし、これからも行動するし、それはアメリカに行った時に学んだことだと思います。全てはバスケットにつながるとして、いつも生活をしているので、その基盤が身に付いたのが僕のアメリカ留生活だと思います。

「このチームでみんなと一緒に挑戦していきたい」

神田：そしてチャレンジということでは、アメリカから、横浜、そして今この広島を選ばれた。最後のトークは、なぜ広島を選ばれたのか、それを教えてください。

田渡：はい。自分はプロの選手になって今年で4年目です。3年間、前は横浜にあるチームにいたんですけど、なかなか勝てなくて、自分が中心選手でやってきたけど、なかなかチームに貢献できなかった。でも、自分をもっとうまくなりたいと思ったし、どうやったらうまくなれるんだろうと考えたときに、新しいチームに行き、もう一回挑戦しようと思いました。その中で広島に来たのは、今、Bリーグというのは三つリーグがあります。1部と2部と3部があるんですが、広島はB2に所属していたのが、今年からB1に上がったタイミングで、チームとしても県としても新しい挑戦、そういう印象を自分は抱いたので、では、このチームでみんなと一緒に挑戦していきたいなという思いがあって広島に来ました。

神田：心のモットーというのはありますか。負けちゃいけないとか、いっぱい、みんなそれぞれあるんですけども。

「モットーは『気迫』。 『気迫』というのは、 相手を圧倒する精神力という意味」

田渡：これも、自分の高校の、横断幕って分かるかな。一文、字、「勝利」とか「勝つ」みたいな言葉があるんだけど、

僕の高校の横断幕は「気迫」という言葉が書かれていました。「気迫」というのは、相手を圧倒する精神力という意味です。それを僕は、生まれて、自分の両親にすごく教わったというか、植え付けられたものだと思っているし、それが自分のモットーで、毎日バスケットボールに触るとき、コートに行くとき、毎回その気持ちを大事に。やりたくてもやれない人はたくさんいるので。自分はプロのバスケットボール選手で、今日もこうやってたくさんの人たちが応援しに来てくれる立場で、恵まれています。それを当たり前だと思わないで、毎日やるのが自分のモットーです。

神田：いや、勉強になることばかりですね。お父さん、お母さんも、すごい勉強になる話ですよ。バスケットというのは、人生の中でどういう意味、どういう位置付けなんですか。

「バスケットが全て。 バスケットボールが 自分をこういう人間にしてくれた」

田渡：全てですね。

神田：全て。

田渡：僕は全部バスケットボール。バスケットのことを考えていない自分ってたぶんなくて、早く寝るのもバスケットのためだし、お菓子とか食べないのもバスケットのためだし、お酒を飲まないのもバスケットのためだし、揚げ物をあまり食べないのもバスケットのためなので、全て。今日も早く帰って寝て、明日の練習に備えなきゃいけない。それもバスケットのためにやることで、だから全てです。でも、それをやっている、やっぱり人としても成長できるんじゃないかなと思うので、バスケットボールが自分をこういう人間にしてくれたと思っているし、これからも自分をもっともっとやっていけるんじゃないかなと思っています。

(以上)



明るい家庭の日運動

令和2年度「家庭の日」に関する作文・図画

健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。

青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。

この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、県内の小・中学生を対象に募集を行い、県内の小学校37校、中学校23校から作文・図画を合わせて1,328作品の応募がありました。

これらの作品は、日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと、家族に感謝している心や存在の大切さなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

審査の結果、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文10作品、入選図画5作品が選ばれました。

令和2年度「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品 入賞者

作文の部

●特選(広島県知事賞)

呉市立呉中央中学校	1年	宮 岡 隼 都	「海と心の祖父」
呉市立音戸中学校	3年	桐 谷 友 里	「いってらっしゃい」
広島市立宇品中学校	3年	宮 本 優	「大きいおばあちゃん」

●入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)

東広島市立龍王小学校	2年	今 井 怜央奈	「おじいちゃんおばあちゃん大好き」
東広島市立三ツ城小学校	5年	江 口 結 菜	「家族の力でできている夕飯の時間」
広島市立楠那小学校	5年	大 坂 柊 真	「わが家の家訓」
庄原市立庄原中学校	1年	天 野 椋 水	「私の父と母」
呉市立呉中央中学校	1年	世 良 麻 琴	「家族の距離感」
福山市立培遠中学校	2年	島 原 康 平	「チーム康平」
広島県立三次中学校	2年	中 村 隼 翔	「家族の応援、力になる」
広島市立五月が丘中学校	3年	角 山 幹 太	「素晴らしい家族との時間」
広島市立宇品中学校	3年	日 山 花 音	「良きライバル」

※他に広島市立宇品中学校に受賞者がおられますが、本人の希望により掲載を控えさせていただきます。

図画の部

●特選(広島県知事賞)

福山市立御幸小学校	3年	門 田 心	「かぞくみんなで集まって楽しい時間ができた」
-----------	----	-------	------------------------

●入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)

広島市立楠那小学校	1年	中 野 世 理	「ちいさいときのわたしとパパ。」
呉市立安登小学校	1年	森 下 英 太	「なつやすみにいえて、プールをしたよ。」
呉市立坪内小学校	2年	中 原 愛 結	「レオマでお母さんとスライダー楽しかった。」
広島市立戸坂小学校	4年	杉 浦 芭 奈	「家庭の菜園が、出来る事が家庭の幸せな日々。」
福山市立御幸小学校	6年	山 成 花 凜	「去年行った水族館の魚を家族の手形で表した。」



海と心の祖父

呉市立呉中央中学校 1年 みやおか 宮岡 はやと 隼都

「なんで捨てるんかの。」
 祖父は、捨てられた魚釣りの仕掛けを見つけると、手際よく片付けていく。魔術師みたいだ。魚釣りに行くと必ず祖父がやることだ。僕は、祖父の影響で、魚釣りが大好きだ。初めて魚釣りに連れて行ってくれた時の事は、今でも覚えている。海に着いて、嬉しさと早く釣りをしたい気持ちで走り出した時に、大きな手で、肩をつかまれた。
 「走ったらいけん。海に落ちるぞ。」
 と怒られた。堤防へ行くと、釣り糸が落ちていた。触ろうとすると、
 「針が刺さって怪我をするから危ない。」
 と怒られた。
 えさの付け方、竿の投げ方、タイミングなど魚釣りのやり方だけでなく、魚釣りのルール、釣り人の自覚を教えてくれた。だから、僕は、釣りに行く時は必ずゴミ袋を持っていく習慣がついた。(来た時よりもきれいにして帰る。)
 祖父は、少し厳しいところもあったけど、潮風に吹かれて竿先を見ながら、家族の事や学校の事など、たくさん話をした。魚が釣れた時は一緒に喜んでくれた。
 祖父は、12年前に胃がんになった。数年前に再発し、抗がん剤治療をしていた。会うたびに少し痩せていったけれど、元気そうに見えた。だから、緊急入院したと聞いた時はとても驚いた。子供は面会謝絶だったので、手紙を書いた。普段、手紙を書かないから、すごく時間がかかったけれど、思いを込めて書いた。後で母から祖父が喜んでいたらと聞いた時は嬉しかった。
 数日後、容態が急変した。家族と病室に行った。痩せて一回り小さくなった祖父。目を閉じたままで、声をかけると薄く目が開いてすぐに閉じた。手を握ると、痩せ細った小さな手に驚いた。あの力強い手で握り返してほしかった。胸が締め付けられて、泣きそうになった。でも、泣いたら祖父が悲しむと思って歯をくいしばって我慢した。
 次の日、祖父が亡くなった。初めて身近な人が亡くなった。泣いている人もいたけれど、僕は涙が出なかった。優しい顔で寝ているように見え、亡くなった実感がなかったからかもしれない。
 葬式の後、車窓から海が見えた。窓を開けると、潮風の匂いがした。祖父といった釣りの思い出が、連写で駆け巡って涙が出てきた。あふれ出て止まらなかった。
 祖父が亡くなり10ヶ月。いつもの海へ行ったら。波はおだやかで、潮風が吹いていた。ふと見ると、魚釣りの仕掛けが捨てられていた。僕はそれを拾いながら、
 「なんで捨てるんかね。」
 と祖父と同じことを言っていた。
 一緒に魚釣りをしてくれる祖父はいない。けれど、僕の心の中でずっと生きている。



いってらっしゃい

呉市立音戸中学校 3年 きりたに 桐谷 ゆり 友里

「ただいま。」
 妹や弟、母とも違う。太くてしっかりとした声が玄関から聞こえる。
 「おかえり、父さん。」
 と元気よく、少し早口で言う5歳の弟が我先にと玄関に向かう。この家を支える、一家の大黒柱、父親のもとに。
 私の父は海上自衛隊に勤めている。一回海に出ると半年近く仕事なので、あまり家に帰ることはない。しかしこの日、半年振りに父の休暇がやってきた。皆の笑顔が増えた気がする。私達が手伝っていてもなお忙しい母に余裕が出来た気がする。父の存在一つで家庭がこんなに明るくなるものかと毎度毎度驚いてしまう。
 「ねえ、遊びに行こう。遠くに行こう。あっ、おもちゃでも遊ぼう。早く！」
 弟が寝ている父の腕にしがみつくと、
 「明日明日。今日はゆっくりさせさせて。」
 母が優しく、お願い！とふてくされた弟を慰める。父が帰って来たのは、夜だったので、私達は夜が過ぎるのを待った。
 次の朝、いつも起こされないと起きない弟がリビングにいる。小学4年生の妹はなんと朝から宿題に取り組んでいる。すると母が、「父さんと遊びに行きたいけれど、早く起こしてって言われて。でも、やっぱり眠そう。」
 母が苦笑する。当の本人はもそもそとトーストを食べている。父が部屋から来て、
 「今日、皆で山に登らん？ちょっと遠めの散歩。楽しそうじゃない？」
 最近あまり外に出ていないと思う。きっと風が心地良いだろう。いつもよりずっと速く今日分の宿題を終わらせる。弟は、楽しそうに帽子、虫取り網、水筒などの準備をしている。よほど楽しそうらしく、鼻歌が聞こえる。
 勉強道具を片づけ、キュッと帽子をかぶる。靴を履き、つま先をタイルの床にぶつける。妹は水筒、弟は虫取り網を持ち、いざ出陣と言わんばかりに歩き出す。
 登る途中、学校や家であったことを話す。私が話すときは「友達がね」から始める。以前その子について父に話した時からはずいぶん月日がたっているので、無理に友達の名前を覚えなくても良いと思っているからだ。
 「もしかして、○○ちゃん？合ってる？」
 そう言って、覚えていてくれる。そういうところが家族皆に好かれる一つなのだと思う。
 父は自分達のささいなことまで覚えてくれる。家族を大切にしていることが分かる。そんな父だから帰って来る日が特別で、皆が父が大好きなのだと思う。
 休暇が終わると、父は日が出る前に仕事に向かう。私は滅多に言えない「いってらっしゃい」を今日こそ、言おうと思う。



大きいおばあちゃん

広島市立宇品中学校 3年 みやもと ゆう 宮本 優

僕には「おばあちゃん」と呼んでいる人が3人います。1人は父方の祖母、1人は母方の祖母、そしてもう1人が母方の祖母の母つまり曾祖母です。家族の中では曾祖母のことを「大きいおばあちゃん」と呼んでいます。「大きい」というのは、決して身長が高いわけでも、体格がいいわけでもありません。どちらかといえば、僕から見ると家族、親戚の中で一番小さいです。そんな曾祖母を「大きいおばあちゃん」と呼ぶのは、親戚の中で年齢が一番「大きい」ということからです。曾祖母の年齢は99歳。あと半年で100歳になります。耳は遠いし、足腰が弱っているのですべての動きがスローモーションの映像のようにゆっくりですが、祖母や祖母の妹にお世話してもらいながら、今も元気に過ごしています。また、おしゃべりが得意なほうではなく、どちらかというと「うん。うん。」と話を聞くのが好きなほうなので、僕は曾祖母の昔の話を直接聞いたことはあまりありません。しかし、母や祖母から、この99年間の間にいろいろなことがあったと聞いています。

僕は今、社会の授業で第二次世界大戦の終結まで習い終えています。曾祖母が生まれたのは大正10年、1921年です。歴史の教科書を見ると、この頃、国際連盟が発足したり、ワシントン会議が開かれたり、ソ連が成立したりと、歴史的に重要なことがたくさん起きていました。そして、今の僕と同じ14歳頃（昭和10年頃）は、日本が国際連盟から脱退し、二・二六事件など軍部が力を強めていった時代です。また、今はもう亡くなっていますが、曾祖母の夫、つまり僕の曾祖父は、若い頃陸軍の獣医に所属していたため、いろいろな戦争を経験していたようです。そして、曾祖父が曾祖母と結婚してからは、満州での暮らしが始まったそうです。曾祖父は、日記を書く人だったので、その当時の戦地の様子や一緒にその軍にいた人との何気ない会話、食事の話、偶然戦地で同郷の人に会ったことなどが記されてありました。戦地という以外は僕たちの日常とあまり変わらない日記でした。

しかし、満州で終戦を迎えると、曾祖父は曾祖母と満州で生まれた子ども2人を残したまま、シベリアへ抑留させられていました。その間に長男は満州で亡くなり、曾祖母と次男は終戦の翌年、日本に帰ってくることができました。そして、その1年半後、曾祖父は何とか無事に日本に帰り、再び家族で過ごせるようになったそうです。

曾祖母が経験したこの話は、まさに今僕が歴史の授業で習っている話です。教科書の活字のことで、想像すらできませんでした。しかし曾祖母はそれを体験している、そして戦後何も無い状態から曾祖母たちが新しい日本をつくって来てくれたおかげで、今の僕たちがいるんだと思うと、感謝と尊敬の気持ちを持って接していかなければいけないと思いました。

時々曾祖母に会いに行くと、行く度に「優ちゃん大きくなったねえ。」と目を細めて、しわくちやの笑顔で言ってくれます。そして、学校であったこと、頑張っていることを報告すると、すごく喜んでほめてくれます。帰り際には、「頑張ってるね。」としわしわの手で握手してくれます。今まで苦勞しながら頑張って生きてきた力強くも優しい手です。僕にとって1人しかいない曾祖母、ずっと元気でもっと長生きしてほしいです。



福山市立御幸小学校 3年 もんでん こころ 門田 心

かぞくみんなが集まって楽しい時間ができた



広島市立楠那小学校
1年 中野 世理
ちいさいときのわたしとパパ。



呉市立安登小学校
1年 森下 英太
なつやすみにいえて、プールをしたよ。



広島市立戸坂小学校
4年 杉浦 芭奈
家庭の菜園が、出来る事が
家庭の幸せな日々。



呉市立坪内小学校
2年 中原 愛結
レオマでお母さんとスライダー
楽しかった。



福山市立御幸小学校
6年 山成 花凛
去年行った水族館の魚を
家族の手形で表した。



協賛：広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、
広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、
広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、
広島安佐ロータリークラブ

市区町民会議活動等報告

市区町民会議は県民運動を推進する組織です。県内各地域の実情に応じて特色ある活動を行っていますが、今年度は、コロナ禍で思うような活動ができませんでした。コロナの克服を願うとともに、各団体の近況を報告します。

広島市青少年健全育成連絡協議会

広島市青少年健全育成連絡協議会では、広島市、広島市教育委員会と共催し、毎年11月、家庭、学校、地域社会及び行政が一体となった市民総ぐるみの青少年健全育成活動を推進し、市民意識の啓発を図ることを目的として、「広島市青少年健全育成市民大会」を開催しています。残念ながら今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、後日表彰式のみ執り行いました。

来年度は大会が開催できる状況にあることを願うとともに、引き続き将来を担う青少年の育成に取り組んでいきたいと思っております。



広島市青少年健全育成連絡協議会会長表彰 表彰式

中区青少年健全育成連絡協議会

本協議会では例年、大人と子どもの共同制作を通じて互いの感性を豊かにし、世代を超えた交流を図る「多世代交流ウッドコンテスト」や、青少年の意見や活動発表に触れることを通じて大人や社会のあり方などを共に考える「青少年健全育成大会」を主要事業として開催するほか、あいさつ運動や見守り活動を続けているところです。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、コンテストや大会は中止とせざるを得ない状況となりましたが、これからも子どもたちのたくましく健やかな成長を願い、その一助となれるよう活動してまいります。



昨年度の「多世代交流ウッドコンテスト」

東区青少年健全育成連絡協議会

「東区青少年健全育成大会」～子ども達の声を聴く会～

東区では、青少年の意見に耳を傾け、地域・家庭の取り組むべき問題について区民が考えるきっかけとすることを目的として、青少年健全育成大会を毎年10月に開催しています。

令和元年の大会では、小学生の「助け合いの大切さ」、中学生の「部活動から学んだこと」、高校生の「自分を変える」など、計10名の発表と幕間では、小学生の合唱パフォーマンスがありました。今年度、新型コロナウイルス感染症のため、本来の活動ができなかったことを踏まえ、令和3年度は新しい生活様式を考慮した健全育成活動を推し進めていきたいと考えています。



東区民文化センター ホールにて

南区青少年健全育成連絡協議会

南区青少年健全育成連絡協議会では、例年、7月に開催される「広島みなと 夢 花火大会」において街頭での啓発活動・パトロールを実施し、11月には「南区青少年健全育成大会～中学生・高校生の声を聴く会～」を、2月には研修会を開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響等により行事の中止が続いていますが、感染を気にせず活動できる日が少しでも早く訪れるよう願っています。



「2019広島みなと 夢 花火大会」街頭啓発活動の様子

西区青少年健全育成連絡協議会

西区青少年健全育成連絡協議会では、PTAや保護司会などの各種団体と連携して、毎年11月の「子ども・若者育成支援強調月間」に、青少年健全育成大会（小学生・中学生の声を聴く会）を開催してきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大会を開催できませんでした。

コロナ禍においても、次代を担う青少年の想いを広く発信していくため、今年度は意見発表原稿を取りまとめた冊子を作成し、区内の関係団体、小・中学校全てのクラスに配布しました。



令和2年度 青少年健全育成意見発表冊子



広島市立中広中学校体育館にて(令和元年)

安佐南区青少年健全育成連絡協議会

安佐南区青少年健全育成連絡協議会では、あいさつや声かけを一層促し、地域住民が日常的に子供を見守る意識を高めることにより、防犯や事故防止につなげるため、地区ごとに地域の方々や、小学校、区役所といっしょに、「あいさつ運動」を実施しています。

「あいさつ運動」を実施し、地域住民同士のあいさつを呼びかけることで、気軽に声をかけあえる、顔の見える地域社会を取り戻すなど、地域コミュニティの活性化の促進も目指しています。



「あいさつ運動」の様子

安佐北区青少年健全育成連絡協議会

毎年10月に青少年の薬物乱用防止や非行防止を目的とした「青少年ふれあいコンサート～なくそう犯罪あさきた～」を開催しています。

地域の中学生と高校生がコンサートの運営や司会を務め、出演者は音楽演奏やダンス等を通して、薬物乱用防止と非行防止のメッセージを発信します。

フィナーレでは、「あさきたのうた」を全員で合唱し、薬物防止や非行防止のメッセージが書かれた巨大風船を舞い上げ、会場全体の一体感も醸成しています。



フィナーレの様子(安佐北区民文化センター)

安芸区青少年健全育成連絡協議会

安芸区青少年健全育成連絡協議会では、様々な活動を通じて、青少年の健やかな成長のための取組みを推進しています。

毎年、7月の青少年の非行・被害防止全国強調月間には、世代を越えたふれあいと文化の祭典として「安芸区ふれあいフェスティバル」を開催しています。

そこでは、子どもから高齢者まで幅広い世代が、歌や演奏、踊りなどを披露して会場を盛り上げ、青少年と地域の方々がふれあい、繋がりを深める機会となっています。



H31年度安芸区ふれあいフェスティバルの様子

佐伯区青少年健全育成連絡協議会

佐伯区は、例年2月に青少年健全育成大会「子供フェスタ・青少年の思い発表」を開催しています。

子供フェスタは、約10団体の子供がステージで和太鼓・バトン・踊り等を披露するほか、あそびのひろばでは、けん玉・かえっこバザール等の遊びで親子の絆を深めています。

青少年の思い発表は、佐伯区内の中学校10校の代表者が日常生活で感じたこと、将来の夢・希望、悩み等について、自分の思いを言葉で発表する場を提供し、地域社会への参加を促進しています。

青少年が、夢・希望・目標に向かって健やかに取り組むことのできる社会環境をサポートし、明るく住みよい佐伯区を目指して頑張っております。



「青少年の思い」発表大会の様子

青少年育成呉市民会議（呉市青少年補導員連絡協議会）

新型コロナウイルス感染拡大予防のために学校が臨時休業し、様々な会議や行事も中止・延期となりました。

その中で各地区の青少年補導員は、工夫しながら毎日のように声かけ活動を行っています。児童生徒のストレスやDV等にも心を配り、学校とも連携して子どもたちを見守っています。

また、夏休みや冬休みには、繁華街やゲームセンターなど地域の気になる箇所を巡視し、防犯活動だけでなく補導活動にも努めています。



青少年育成三原市民会議

ファミリー版画教室

青少年育成三原市民会議では、毎年11月に小学生とその保護者を対象として、年賀状に使用できる版画を作成する「ファミリー版画教室」を市内3会場で開催しています。

今年度は、作業机にパーテーションを設置したり、体調確認、手指の消毒など、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施しました。

親子で一緒に版画を作成することで、親子のふれあいの場をもっといただくことを目的とした事業ですが、親子の和気あいあいとした声の聞こえる楽しい行事に今年もなりました。



ファミリー版画教室の様子

青少年育成尾道市民会議

令和2年度はコロナ禍のため中止になりましたが、毎年11月に青少年健全育成大会（市と共催）を開催しています。（令和元年度の開催で第55回大会になりました。）

大会では、市の青少年健全育成功労者等の表彰式、小中学生を対象として募集した「電子メディアとの付き合い方」の標語と健全育成作文の優秀作品の表彰式と発表を行っています。また、アトラクションとして、小学校の吹奏楽や中学校の太鼓の出演があり、毎回、子どもたちから感動と元気もらっています。

他に市民会議の事業として、小学校区の地域安全マップの作製、地域の青少年育成団体への活動支援等が主な事業です。

本会議は平成9年3月の設立ですが、現在、加盟団体数が35団体までに減少し、予算も厳しい状況での運営が続いており、加盟団体の増加など組織強化とともに、地域や関係団体との連携が課題となっています。今後も心豊かで健やかな青少年の健全育成につながるよう取り組みを進めていきます。



第55回青少年健全育成大会の様子

公益財団法人福山市スポーツ協会

11月「子供・若者育成支援強調月間」の取組について

毎年11月の「子供・若者育成支援強調月間」にあわせて、福山市青少年センターや福山市中央青少年育成員等の関係機関と合同で、福山市の主要駅においてあいさつ運動と合同街頭補導を実施しています。今年は、11月12日（木）の朝に実施しました。

また、青少年の健全育成を目的とした研修会を実施してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「青少年センターだより」での啓発に変更しました。なお、ふくやまふれ愛ランドでは、自然の中で豊かな感性と創造力を育む野外体験活動を通年実施しています。



青少年育成府中市民会議

～活動の継続を願って～

青少年育成府中市民会議では、毎年10月に少年少女主張大会を開催しています。今年で40回目を迎える記念大会となる予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

この主張大会は、本市民会議の団体活動委員会が主管となって大会運営を行い、市内小中学校、義務教育学校の代表8名が普段の学校生活から感じたことや学んだこと、将来の夢等を意見発表します。

年々、発表者の相手意識や目的意識を持った話し方が向上し、聞く側の大人も子ども達の思いを直に聞ける場として大変好評です。

これからも、青少年の健全育成を育む場として取組みを推進していきます。



第39回府中市少年少女主張大会の発表者

青少年育成三次市民会議

青少年育成三次市民会議では、今年は密にならない活動として、JR三次駅前ロータリーに「あいさつ声掛け運動」の幟旗の掲出を行いました。

青少年育成神杉町民会議では、11月15日(日)、「歩こう会・運動の集い」を開催しました。ゴミ拾いをしながら二本松地域に集合。ミニゲームや焚火を囲んで焼き芋…保育所園児から高齢者まで約110人が参加。地域住民の交流を図る笑顔に溢れ和やかな楽しい行事となりました。

青少年育成川地町民会議では、毎年『みんなであそぼう会』と題し、主に夏休みに『ショーを観て感動し、それを習う』という体験活動をしています。今年は、コロナ感染対策を万全にして、マジックショー+マジック教室を開催しました。参加者は、約30人。たくさんのちびっこマジシャンが誕生しました。

これからも青少年のために、できる範囲で、出来ることをしっかりと発信し活動していきたいと思えます。



青少年育成庄原市民会議

青少年育成庄原市民会議では、活動が制限される中、あいさつ運動ポスターや標語、俳句を募集し、表彰や作品集を作成したほか、距離を保ちながらのパトロール活動や密を避けた世代間交流イベント等を実施しました。

一方、備北地区中学生意見発表大会をはじめ、スポーツ教室や体験学習等、多くの行事が中止となりました。

来年度は、感染症防止対策に努めることを優先して事業を計画しています。新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収束することを願い、子どもたちの健やかな成長のため、今私たちにできる活動に取り組んでいきたいです。



防犯声かけパトロールの様子

青少年育成東広島市民会議

青少年育成東広島市民会議では、令和3年1月30日の「HIGASHIHIROSHIMA『少年の主張』」開催に向け準備を進めています。この大会は、市内中学生が社会問題や日常生活で思い感じることなどを発表するもので、中学生の表現力を育み、互いの考えを学び合う機会とすること、また、意見発表を通して、中学生に対する大人の理解と知識を深めることを目的に開催します。生徒たちが一生懸命に発表する姿に元気をもらい、今後も次代を担う青少年の健全育成に取り込んでいきたいと思えます。

※今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、入場は関係者及び事前申込者に限定し、発表は映像(動画)で行います。



HIGASHIHIROSHIMA『少年の主張』令和元年度発表の様子

青少年育成廿日市市民会議

第32回青少年育成廿日市市民大会を9月6日 ウッドワンさくらびあ大ホールにて開催!!

私たち市民会議の活動を広く市民に啓発し、青少年の市民参加活動を促すことにより、その成果をあげ、これを確かめる目的に開催しています。

今年度は、たくさんのイベントが新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止に追い込まれている中、「生涯一度の学年で学校生活を送るその子ども達のことを一番に考えて」今年も開催を決断しました。感染防止に万全を期し、多くの困難を乗り越えて、子ども達に思い出をプレゼントできた事に感謝しています。



青少年育成府中町民会議

「さわやかあいさつ運動」

毎月17日の青少年の日に、府中町内では、学校の正門及びその近辺で「さわやかあいさつ運動」を実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策で、人が密になる行事は中止していますが、さわやかあいさつ運動は実施しています。マスクを着用して活動なので、表情が見えにくく、大きな声でのあいさつはできませんが、目と目を合わせて笑顔であいさつをしてくれる子どもたちから元気をもらいながら活動しています。

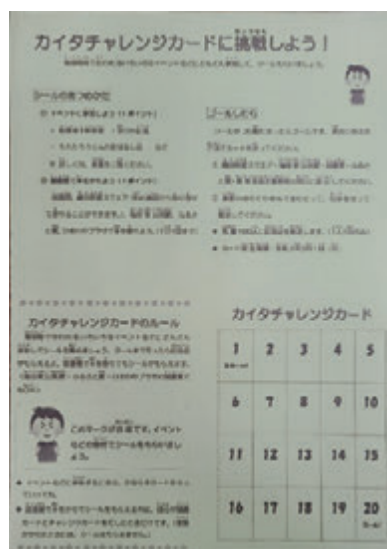


さわやかあいさつ運動

青少年育成海田町民会議

町内の小学生を対象に、「カイトチャレンジカード」を実施しています。町内のイベントなどに参加するとシールをもらえ、それを20枚集めた児童に記念品を贈呈しています。

新型コロナウイルス感染症のため、残念ながら例年よりイベントが少ないのですが、今年も多くの児童が参加してくれました。町内のイベントに積極的に参加してもらうためのきっかけづくりになっています。



カイトチャレンジカード

青少年育成くまの町民会議

青少年育成くまの町民会議では、町内各団体や学校、保護者などの協力を得て、青少年健全育成運動に取り組んでいます。その活動の一環として、幼児の責任感や花と緑を愛する心を育むことを目的に、幼児に花苗の植え付けから、根付くまで花の世話をしてもらう「環境美化活動」を行っています。

育てた花は、町内の老人福祉施設に贈呈し、幼児と高齢者の異世代間の交流を図っています。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの活動を自粛せざるを得ない状況ですが、これからも心豊かな青少年が育つよう活動していきます。



青少年育成坂町民会議

青少年育成坂町民会議では、毎年5月の第2日曜日に坂駅近隣の商業エリアから町民センターまで、町民約700名が、約20分かけて道行く人にあいさつをして、よりよい人間関係を築く「あいさつパレード」を開催しております。しかし昨年から新型コロナウイルスの影響により、開催が困難となっております。このような状況であるからこそ、人と人との繋がりが大切となりますので、活動はできなくてもあいさつを忘れずに、また皆でパレードが行えることを願っております。



青少年育成安芸太田町民会議

平成21年度から町内中学校2年生を対象に毎年「立志式」を開催しています。立志式は生徒自らが自立心をもって生きることを促し、心豊かでたくましく生きる生徒の育成を図ることを目的に開催しています。

式典では、各学校の生徒代表が将来の抱負について、決意表明し、講演会では、各方面で活躍している町出身者をお招きし、中学校在籍時の夢や現在のお仕事等についてお話をいただいています。

毎年、多くの来賓の方に出席していただき、成長過程にある生徒を激励していただいています。



北広島町青少年育成推進協議会

一害を除く

長い間、道行く人々に標語を掲示してきた青少協の古い鉄製看板がありました。看板は笑顔の輪を広げ、その役割を十分に果たし、今は赤サビだらけの姿となって周囲の環境を汚していました。その看板五基を昨年と今年の予算で撤去しました。中国の古い言葉に「一利を興すは、一害を除くに如かず」という言葉があります。コロナ禍の今だからこそ、無理して新しいことを始めるより、害をなしているものを取り除くことも重要と思います。



青少年育成大崎上島町民会議

青少年育成大崎上島町民会議では、町内巡回指導として夏に夜間のパトロール、啓発事業としてパンフレットの配布、三年に一度の講演会の開催等の活動を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、町内行事が中止となったことから、例年と同じ活動はできておりません。コロナ禍でも出来る活動として、町民会議にてハンドジェルを作成し、町立幼稚園園児・小学校及び中学校生徒への配布を実施しました。



昨年度の啓発活動の様子

青少年育成世羅町民会議

青少年育成世羅町民会議では、次代を担う青少年が郷土に誇りをもち、責任と自覚を高めることができるよう、健全育成を図ることを目的に活動をしています。

毎年11月には青少年の健全育成を図るための研修会を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止をしましたが、来年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、活動を進めていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。



昨年度の研修会の様子

青少年育成神石高原町民会議（協議会）

青少年育成神石高原町民会議では、毎年「あいさつ運動」の実施や各地域で取り組まれている児童生徒の登下校時のパトロールや声かけ、啓発看板の作成等の安全への取り組みについて推進しています。

また、昨年度は青少年育成に関する講演会として、講師に安藤周治様をお迎えし、「まちづくりから青少年を考える」をテーマに講演を行っていただきました。今年度も講演会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止の判断を行いました。

来年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、家庭・学校・地域等が協力・連携し、多くの人が参画する町民運動を進めていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。



「少年の主張」・ 中学生話し方大会2020

第42回少年の主張広島県大会
第54回中学生話し方広島大会



広島県立広島中学校 2年 上野 ちひろ さん



広島県大会の出場者の皆さん

令和2年9月5日(土)、広島県社会福祉会館において、「少年の主張」・中学生話し方大会2020(第42回「少年の主張」広島県大会、第54回中学生話し方広島大会)を広島県中学校話し方連盟と共催で開催しました。

今大会には、県内中学校の24校から1,086編の応募があり、その中から原稿審査を通過した基準を含む16人が、それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては、身近なことの体験と感想を基に掘り下げて自分の意見を作り出している人が多かったようです。そして自分が見つけた考えや意見をこれからの自分の生き方に活かしていこうとしています。態度はしっかりと、明るく、とても良い発表ができていました。

ここに、広島県知事賞を受賞した広島県立広島中学校2年上野 ちひろさんの意見発表を掲載します。

受賞者一覧

受賞名	中学校名	氏名	題名
広島県知事賞	広島県立広島中学校	2年 上野 ちひろ	ほたるの里の絆
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	東広島市立松賀中学校	3年 遠藤 尚貴	今を大切に
広島県中学校話し方連盟会長賞	三次市立川地中学校	2年 山崎 滉太	知ろうとすること 受け継いでいくこと
国際ソロプチミスト広島会長賞	熊野町立熊野東中学校	3年 吉田 菜々美	本当の私を知ってもらうために
広島清流ライオンズクラブ会長賞	広島市立瀬野川中学校	3年 穴戸 心一	IT その二つの顔
優 秀 賞	三原市立第三中学校	3年 玉江 華	コロナに負けない!
優 秀 賞	広島市立大塚中学校	2年 郷田 果歩	心にオアシスを
優 秀 賞	庄原市立比和中学校	2年 津田 ほのか	いっそう強くなった将来の夢
優 良 賞	坂町立坂中学校	2年 東 剣生	忠恕
優 良 賞	広島市立牛田中学校	1年 大坪 莉子	視野を広げる
優 良 賞	竹原市立賀茂川中学校	3年 杉山 葵	言葉の魔法
優 良 賞	福山市立城北中学校	3年 大津 貴寛	見方を変えよう
優 良 賞	三次市立甲奴中学校	3年 藤井 継音	才能の有無より人としての成長
優 良 賞	廿日市市立吉和中学校	3年 金 チュビ	心
優 良 賞	広島市立伴中学校	3年 白浜 夏鈴	絶対に無駄じゃない
基 準 賞	広島市立江波中学校	1年 三浦 桃奈	第三者と共に

ほたるの里の絆

広島県立広島中学校 2年 ^{うえの}上野 ちひろ さん

私の住む「竹原市仁賀町」という小さな町は、ホテルが夏のおとずれを教え、秋には町一面が黄金色の稲につつまれる。そんな町です。誰かが困っていると、この町の人は必ず「大丈夫?」と声をかけてくれます。それはきっと、皆が人と人との関わりを大切にしなければできないことだと私は思います。

この町の学校では毎年たくさんの行事が行われます。普通なら学校の行事の主役は児童…なのですが、この町はちがいます。運動会や学習発表会、神明ばやしやもちつきなどは、いつも地域のおじいさんやおばあさんも一緒に、町のみんなが主役です。だから子供たちは皆地域の人ととても仲が良いです。地域の人達も、私たちに会うと、

「この前の学芸会よかったよ。」

と元気が出る言葉をかけてくれます。

お正月になると、おばあさんたちは年賀状を送ってくれます。そこには「あなたたちの太鼓を聴いて涙が出ました。日本一の和太鼓です」と書かれていました。まるで本当の祖父母みたいに接してくれて、私たちの太鼓でこんなにも喜んでくれて、嬉しくて、嬉しくて、思わず頬が緩みました。

私が6年生の年の夏、この町も西日本豪雨災害の被害にあった町の一つでした。山のいたるところがくずれ落ち、茶色い地面がむき出しに。私の家も水につかり泥だらけです。毎日シャベルを手に泥のかき出し作業に明け暮れていた頃、

「来たよー。」

という声がしました。

誰だろうと思いつつ声のする方に行くと、そこにはシャベル片手に作業着姿の近所の人達が立っていました。

「大変なときこそ協力しなきゃ。」

と言って、皆で泥のかき出し作業を手伝ってくれました。きっと皆だって大変なはずです。でも、手伝ってくれた友達のお母さんは、父や母がお礼を言うと、

「困ったときはお互い様よ。」

と笑顔で返してくれました。しばらくすると、おばあさんが

「差し入れ持ってきたよ。」

と両手いっぱいにご飯を届けてくれました。

私は胸が熱くなりました。困ったときはお互いに助け合う。よく聞くことだけど、意外と難しいことで、自分を優先させることだってできるのに、それでも助け合うことが自然とできて、この町の人にとってはそれがあたりまえになっている。みんなの優しさと温かさで、私の胸はいっぱいになりました。

この町は、とても小さいし、決して便利がいいわけではありません。でも、だからこそ町の人との関わりを大切に、お互いに助け合うことができるんだと思います。しかし、この町では今、過疎化が進み、仕事などの関係でこの町から出て行く人も少なくありません。それだけでなく、少子高齢化が急進し、小学校の児童は全員で17人。そのうちの半分は、通学区域に関係なく、市町村内のどこからでも入学を認めるという「特認校制度」で別の町から来ている。というのが町の現状です。このままだと、私が大人になった時、地域全体で運動会や発表会ができないかもしれません。それは本当にさみしいです。

この町には昔から歌われている歌があります。「心をあわせて ほら手をつなぎ 人の心のやさしさや 愛を伝える ほたるの里をぼくらみんなで守っていこうよ」日本では今、「ほたるの里」と呼ばれているような町が少なくなっていると言われています。

昔から変わることはない人の温かさ、活気にあふれるこの町。だからこそ、次世代を担う私たちが、この町の誇りと未来を守っていかなければならないと思うのです。

50年先も100年先も「この町のいい所は町の人みんなが温かいところ」と自信をもって言えるように。

関連事業「広島県子供議会」

(青少年サポーター事業)

広島県と広島県議会の共催で、次代を担う子供たちが県政に対する意見や提言を表明できる機会を通して県の魅力や課題に関心を持つとともに、県議会の役割や仕組みを知り、議会制民主主義や地方自治への理解を深め、主体性と社会参画意識を高めることを目的とした「広島県子供議会」が今年も開催されました。

例年は青少年サポーター事業として、子供議員の活動を支援する大学生を募集し、育成していましたが、今年度はコロナ禍の影響でサポーターの募集を見送りました。

■ 広島県子供議会の活動

今年度の子供議会は広島県内に在住する小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒35人で構成されました。「10年後の広島県が〇〇じゃったらええのになぁ」をテーマに、事前の勉強会でアイデアや意見を出しあい、活発な議論をしながらまとめた質問や提案を、知事や県議会議員の前で発表しました。

第1回勉強会

開催日：9月12日(土) 13:00~16:00
会場：広島国際会議場コスモス
内容：子供議会で行う質問・提案文づくり

第2回勉強会

開催日：10月10日(土) 13:00~16:00
会場：広島県議会棟
内容：質問・提案文の完成、担当の決定
議場でのリハーサル、質問の練習

子供議会

開催日：11月7日(土) 13:00~15:05
会場：県議会議事堂

出席者：議長、副議長、知事、副知事、教育長、県警本部長、担当局長等

※当日の午前中に県議会議場で子供議員任命式を行い、県議会議長等から任命書とバッジが交付されました。

子供議会の様子はインターネットで配信中

URL：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gikai/0211kodomogikai.html>



勉強会の様子



リハーサルの様子



子供議会当日の様子



主催：広島県・広島県議会

協賛：公益社団法人青少年育成広島県民会議

■ 新型コロナウイルス感染防止対策

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための広島県の対処方針について」(令和2年9月15日一部改正)等に基づいて対策を講じた上で開催しました。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

7月1日～7月31日

青少年の非行・被害防止
全国強調月間

11月1日～11月30日

子供・若者育成支援
強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、ひろしまドリームプロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日
法人格取得 平成2年10月21日
認定日 平成23年3月22日
育成積立金 5億円(平成3年度設置)
会長 神出亨(株式会社中電工相談役)

Information

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのため活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、機関紙「せとのあさ」やホームページをご覧ください。

<http://www.hiro-payd.or.jp>

■正会員

(年額)	個人	3,000円
	団体	5,000円

■賛助会員

(年額一口)	個人	1,000円
	団体	10,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」等をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

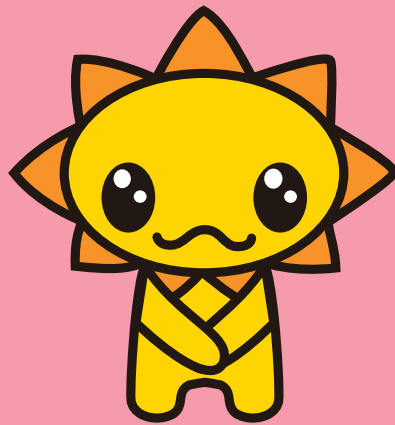
口座番号／(普通) 233251

口座名義／(公社)青少年育成広島県民会議



「ゆっぴー」は、
府中町の小学生が
太陽とライオンをモデルに、
“元気に明るく育つ
青少年”をイメージして
デザインしました。

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

せとのあさ ー第153号ー

令和3年2月発行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL.082-513-2742 FAX.082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>



題字／茶道 上田宗箇流
第十六代家元 上田宗冨